

こども図書館の未来

著者	松本 和美, 高橋 かずみ
雑誌名	鶴見大学紀要. 第3部, 保育・歯科衛生編
号	60
ページ	81-86
発行年	2023-02
URL	http://doi.org/10.24791/00001325



こども図書館の未来

The future of children's libraries

松本和美*、高橋かずみ**

Kazumi MATSUMOTO, Kazumi TAKAHASHI

I. はじめに

コロナ禍で、子どもたちは自由に友達と遊ぶこともできず、親子で自宅に引きこもるような状況が続く日常である。子どもたちは生まれた時から生活上にネット環境やスマートフォンがあつて、そこから情報を得ることに慣れている。保育にかかわる者として、子どもたちには絵本や物語から、美しい日本語、知的好奇心の追求、友達や仲間との関係性、歴史や伝統の意義等、多くの学びがあることを、改めて考えたい。安藤忠雄が建築家の立場から、子どもたちが探求し、集う新しいコンセプトのこども図書館を建築した。今回の研究によって、これからのこども図書館の役割を検討する。

II. 「こども図書館」とは

「こども図書館」とは、乳幼児も含む児童に対する図書館サービスにかかわる施設、機関、機能のすべてを含む総称と考えられている。また子どもを図書館の主な利用者と考えている「図書館」で子どもに資料や情報を提供する機関である。しかし現在でも「こども図書館」として独立した組織、建物は多くはなく、公共図書館の「児童室」「児童コーナー」という形で乳幼児も含む児童に対するサービスが行われているのが現状である。こども図書館（児童図書館）の歴史については次の項で述べるが、19世紀末より公共図書館活動の先導国である英米を皮切りに20世紀には日本でも児童サービスの本格的な取り組みが始まった。

こども図書館（児童図書館）の目的について、中多(2011)は「①子どもが本の世界を楽しみ想像力をはたらかせて本の世界の主人公の人生をともに生きることによって、人間への理解を深め、他者とともに喜び、他者とともに悲しむことができる感性豊かな人間に成長できるように、児童図書館のコレクションをよく整備して、本との出会いを中心に援助すること。②人類が過去から積み上げ、それぞれの民族や社会が継承してきた広い意味での文化財の中で、最善、最良、最高のものを、図書館資料を通じて伝えていくこと。③人間だけがもつ言葉の力を育むことを通じて、想像力を豊かにし、新しいものを創造して表現してい

くことができる力を培うことができるように、手助けすること。④一人一人の子どもが、社会の中ですぐれた人間に成長し、自己実現ができるように助けること。」と述べている。

上述のように、子ども時代に本に出会う場を作り、かけがえない経験ができるよう環境を整えて子どもに本について発信をする役割を担っているこども図書館の働きはたいへん貴重である。

またこども図書館（児童図書館）で実施されるサービスは、貸出、読書案内、レファレンスサービス（質問回答、調査相談）、読書会、展示、また独自のサービスとしてはフロアワーク、お話し会、科学遊び、工作、人形劇、映画会など多岐にわたる。一人一人の子どもを対象に、自由に開放的で自主的な楽しい雰囲気の中で、図書館、本、読書に親しみが持てるようにする。またこども図書館（児童図書館）の目的を実現するためには、①利用者、②資料（コレクション）、③児童図書館員（児童司書）、④建物・設備が必要である。

III. こども図書館の歴史と変遷

英国では18世紀初頭から、また米国では19世紀後半から主にキリスト教の教会の日曜学校で日曜学校図書室として開設され、自由に本を読むことができ、その後は貸し出しを行っていたという記録がみられる。ただし、図書資料の内容や表現が宗教を広めるための教訓的な偏った本も多いと批判されたが、そのことをきっかけに米国は1803年、英国では1850年に法律が作られ公共図書館の児童サービスが開始された。また、米国においては20世紀に入って読書の意義と子どもに対する児童サービスの在り方が考えられるようになりヒューインズ (Caroline M Hewinz)、ムア (Anne Carroll Moore) といった先駆的指導者を輩出し、今日のアメリカの児童図書館の基礎が作られた。

日本においては、明治から大正にかけて図書館の先駆者たちがおもに英米の文献を通じて児童図書館の存在意義を知り、1887年(明治20年)、東京の大日本教育館書籍館^{しよじやくかん}、その後私立大橋図書館が児童を受け入れた。また山口県や

*〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学短期大学部保育科

**アルウィン学園玉成保育専門学校

京都府の公共図書館が児童室を改質したという記録があるが児童図書館の普及に至らなかった。しかし本格的な児童図書館活動の展開は1908年（明治41年）の東京市立日比谷図書館の開館に始まる。

東京市立日比谷図書館は開館と同時に児童室を設け子どもの利用、児童書の貸し出しを全面的に開始（有料—ただし1914年からは無料）し、その後東京市（現在の東京都）では各区の図書館が児童サービスを開始したが、児童図書館の普及、充実について大きく前進することはなかった。また1937年（昭和12年）に日中戦争が始まると、児童図書館の検閲・出版統制がなされ、さらに太平洋戦争が始まると、図書館は閉鎖され焼失した。

戦後1950年（昭和25年）図書館法が制定されたが、児童図書館サービスについては触れられておらず、サービスの重要性を認識していた先駆的な人々や児童図書館研究会、児童文学作家、子どもたちによる本との出会いを願う多くの母親たちの支援によって公共図書館の児童図書館サービスが根づいていった。児童図書館研究会は児童サービスの研究および実践、普及を目的とし、児童図書館員の児童図書館活動の基礎をなすものとして全国の児童図書館員と共有された。そして1960年代半ば以降、児童サービスに重点をおいた図書館運動が全国的に展開された。

1970年代、こども文庫の活動がたいへん活発になり、1974年には全国で2064文庫1980年には4406文庫となり文庫は北海道から沖縄まで日本全国に広がった。それと同時に各地の公共図書館が児童サービスに力を入れ成果が見られた。また1974年にはこれまでも日本の児童図書サービスに貢献してきた石井桃子、土屋滋子、松岡享子らのこども文庫が法人組織の私立「東京子ども図書館」を立ち上げた。1973年には、東京都立日比谷図書館が児童室とそれに併設して児童資料室を設け以後首都圏、関西の各地の都道府県立図書館に児童室が整備され、1980年以降は公共図書館に児童室を設けることは当然との考えが定着した。

IV. 今日のこども図書館

次に現在日本の「こども図書館」の代表的な図書館である「国立国際子ども図書館」と「東京子ども図書館」「武雄市こども図書館」の概要について述べる。

① 国立国際子ども図書館



1. 国立国際子ども図書館の外観

国立国際子ども図書館は、児童書を専門に扱う図書館サービスを行う国立国会図書館の支部図書館である。様々な準備期間を経て2000年に日本初の児童書専門の国立図書館として設立された。日本内外の児童書および児童書に関わる文献の収集・保存・提供をはじめとして、児童書関連の図書館サービスの日本における中枢および国際的な拠点である。施設は東京都台東区上野公園にあり、1906年建設の旧帝国図書館の庁舎を利用している。1990年代に子ども国立の読書離れが深刻な問題として取り上げられるようになり、国立の児童書専門図書館設立を求める政界・民間の声が高まっていた。そこで上野図書館の施設はそれまで国立国会図書館ではそれほど重視されてこなかった児童書のナショナルセンターとして再活用されることになり、1996年には「国際子ども図書館基本計画」が策定され、1999年に国立国会図書館法が改正されて法的に国際子ども図書館の設置が定められた。施設は上野図書館に改修が施され、2000年に一部を改修中のまま部分開館を行った。そして2002年になって全面開館し、児童書の保存・閲覧のほか、児童書関係の研究文献の提供や展示会などのサービスを行っている。国際子ども図書館に使用されている旧帝国図書館はルネサンス様式を取り入れた明治期洋風建築の代表作のひとつで1999年（平成11年）度に東京都選定歴史的建造物に選定されている。蔵書は国内外の約40万冊である。そのうち子どもたちに読んでほしい本、約11000冊、世界を知るための本約1600冊が所蔵されている。

② 公益財団法人東京子ども図書館

公益財団法人東京子ども図書館は東京都中野区江原町にある、児童書専門の私設図書館。運営は、公益財団法人東京子ども図書館。石井桃子、佐々梨代子、松岡享子が創設。東京子ども図書館は、1950年代から60年代にかけて、東京都内4か所ではじめられた家庭文庫が母体となって生まれた私立の図書館である。



2. 母体の一つ 石井桃子のかつら文庫1958年

子どもたちへの直接サービスのほかに「子どもと本の世界で働くおとな」のために資料室の運営、出版、講演・講座の開催、人材育成など様々な活動を行っている。絵本、物語、昔話、詩、ノンフィクションなど8600冊の蔵書が備えられた児童室があり、児童室では小規模な図書館ならではの親しみやすい雰囲気とひとりひとりの子どもへのきまやかなサービスが行われている。また資料室は内外の児童図書や児童文学関係の研究書など約19000冊を備えた研究資料室となっている。

③ 武雄市こども図書館



3. 武雄市こども図書館外観

武雄市こども図書館は佐賀県武雄市の自然豊かな環境に2017年に開館したこども図書館である。「“遊び”から“学び”をコンセプトに全力で子どもの成長をサポートするという施設」（武雄市ホームページたけおポータルより）で主役である子どもたちを中心に作られ大人にとってもリラックスしたり楽しめたりする空間となっている。図書スペースでは約2万冊の本やCD・DVD約1000枚が利用でき、並べ方はテーマ別でこどもの興味を深めていけるように工夫されている。また書架はこどもの視野にあわせて60cmの幅に設計している。「ひみつのへや」（恐竜や魔女、おばけの本に親しめる）「えほんの山」（親子で読書を楽しめる場所）、また本に親しむのはもちろんのこと「しばふひろば」「プレイ&ワークスペース」など体を動かしたりワークショップをするスペースも充実している。

V. こども図書館の未来

建築家 安藤忠雄は、大阪市中之島公園に『こども本の森中之島』を2020年7月に建築した。次に2021年7月には遠野市中央通り・呉服店「旧三田屋」の跡地に『こども本の森遠野』を、2022年3月には『こども本の森神戸』を神戸市の東公園に建築した。



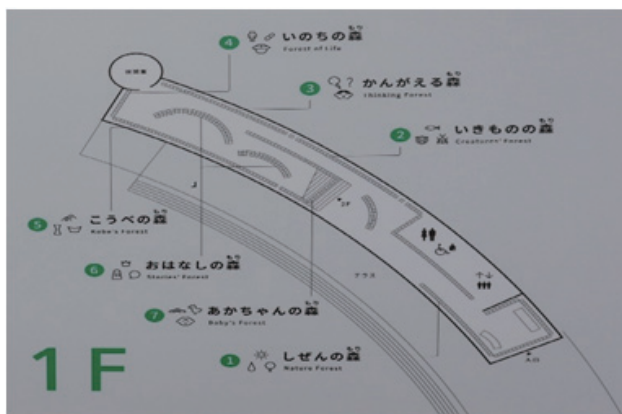
4. こども本の森神戸外観



5. こども本の森遠野外観

安藤忠雄は建築家の立場から、子どもたちに本に出会い、その魅力を受け止めるための器としてまるで図書館で冒険をするかのように、様々な工夫を凝らして楽しめる空間を創った。『こども本の森』では壁全体に本を並べて、自由に手に取って好きな場所で楽しむことができる。安藤は絵本「いたずらのすきなけんちくか」の中で、「ふしぎといろいろなひとがあちこちからあつまってくる。しらないものどうしがしりあって はなしをしたりあそんだり、ひとりでかんがえをめぐらせたり。そうするうちに そのたてものに、いつのまにか いのちがやどる。そこから あたらしいものがたりが はじまるんだ。」と述べている。

『こども本の森』では来館して出会う絵本・空間・人を大切にしたい。その為基本的に本の貸し出しサービスは行っていない。



6. 7. 8. こども本の森 神戸の1階



9. こども本の森中之島

① 『こども本の森』の理念

これからの社会を支えていく子どもたちには、出来るだけ多くの本と出会い、豊かな感性を育てて貰いたい。スマートフォンに触る時間を半分にして、本を読み、考え、そして悩むことで、人生を生きぬく力を身につけて欲しい。自由に本と触れ合える子どものための文化施設である。ここでは本の対象年齢に縛られすぎず、子どもたちが素直にものを見る眼差しや豊かな感受性を何よりも大切に、子どもたちの限りない好奇心をせき止めない。そして、自発的に本を読む習慣や、書き手の想いを1人の読み手として受け取る喜びを知ってもらいたいと考える。



10. 11. がらんどうの塔の部屋
天井の丸い穴から光が差し込む

② こども本の森での出会い

松本（筆者）は2022年2月『こども本の森中之島』、2022年6月『こども本の森神戸』を訪ね、こども図書館としての活動を観察した。

【倫理的配慮について】

図書館の場を撮影するにあたり、図書館の許可を取った。親子の場を撮影するにあたり、研究資料として使用

するために撮影をしてよいか尋ねて許可を取り、撮影後に映像の確認をしていただいて論文掲載の許可を取った。

a. ママ友と図書館に散歩に来た



12. 広くて長い階段を上ったり下ったり

毎日のように、散歩のコースで通ってきている。子どもたちは建物自体を楽しんでいるようだ。

b. どこでも読めます！



13. 壁にはまってパパと絵本を楽しむ

まだ自分で椅子には座れない。父親に片手で支えられながらも一緒に空間がうれしい。

c. 子どもの目線にある絵本たち



14. 母親と一緒に絵本を探して見つけたらそこで見る。

平日の図書館には、未就園児の子どもたちと赤ちゃんがのんびりと過ごす様子が見られた。絵本は下から5段までが自由に手に取れる。展示の絵本は5段までにそろえてあ

る。目についた絵本をその場で手に取りすぐにくめてみる。

d. じっくり読み込む



15. 探検して見つけた場所で

1階から2階へ階段を行ったり来たり。1階の塔の部屋では思わず「小さな声でもわあ〜ってなる！」と探検をした後、見つけた本を持ってじっくりと読みだした。

e. 赤ちゃんの森



16. 赤ちゃん絵本と絵本

赤ちゃん絵本が集められたコーナーは、まずは母親や祖母が赤ちゃん絵本を楽しんで子どもの反応を見る様子が見えた。赤ちゃんは母親の読み聞かせの声に絵本を指さして、初めての絵本体験を楽しむ。

f. 休日は父親と



17. 18. お父さんと 友達と

休日のこども図書館は、父子の語り合う場として有効である。図書館にある図鑑や自分の興味のあるテーマに沿ってじっくりと本を選ぶ。時には父親のアドバイスもあるようだ。また、若者のデートの場所としてもよい。

g. 保育園のお散歩コース



19. 20. 保育園児（1, 2歳児クラス）

近隣の保育園から、散歩を兼ねて乳母車に乗って図書館に来た。「赤ちゃんの森」を行ったり来たりして、自分の絵本を見つけている。絵本より、かくれんぼが楽しい。図書館で遊んだ後は、図書館の前の広場で走り回って遊ぶ姿が見られた。

VI. まとめ

本で埋め尽くされた空間に身を置くと、『こども本の森』の存在意義が改めて感じられる。絵本を選びに行くという目的だけではなく、本のあふれる空間に浸る、といった方がよいかもしれない。平日には保育園児や母子の散歩コースとして、休日には父子の触れ合いの場として通うことが

楽しい図書館である。

図書館に行く目的は、本の閲覧と貸し出しである。『こども本の森』は本の貸し出しがなくて不便であるとの声もあるが、まずは本に浸ること、自ら選ぶことで、読書への扉が開かれるのではないだろうか。

<写真一覧>

1. 国立国際子ども図書館の外観
2. 石井桃子のかつら文庫1958年 東京子ども図書館 HP より抜粋
3. 武雄市子ども図書館外観 武雄市子ども図書館 HP より抜粋
4. こども本の森神戸外観
5. こども本の森遠野外観
6. こども本の森神戸の1階①
リングは『こどもほんの森』のシンボル
7. こども本の森 神戸の1階②環境図
本は子どもにわかりやすい分類になっている。
8. こども本の森神戸の1階③ 考える森コーナー
9. こども本の森中之島
細い道や階段で空間移動できる。
10. こどもの本の森中之島 がらんどうの塔の部屋①
吹き抜けのコンクリートでできた筒状の部屋である。
11. こどもの本の森中之島 がらんどうの塔の部屋②
天井の穴から光が差し込み、話すと声がエコーする。
12. こども本の森神戸 広くて長い階段を上ったり下ったり。
13. こども本の森中之島 壁にはまってパパと絵本を楽しむ。
14. こども本の森中之島 母親と一緒に絵本を探して見つけたらそこで見る。
15. こども本の森中之島 探検して見つけた場所で
16. こども本の森神戸 赤ちゃんと絵本
17. こども本の森中之島 お父さんと
18. こども本の森中之島 友達と
19. こども本の森神戸 保育園児と先生
20. こども本の森神戸 かくれんぼが楽しい！

<参考文献>

- ・「児童図書館サービス1」日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編 日本図書館協会 2011年
- ・「子どもと本の架け橋に 児童図書館にできること」高鷲志子 角川学芸ブックス 2006年
- ・「児童図書館のあゆみ」石倉雅子他共著 児童 図書研究会 2004年
- ・「児童図書館の先駆者たち アメリカ・日本」東京子ども図書館編 2021年
- ・「いたずらのすきなけんちくか」安藤忠雄 小学館 2020年